

之りし也ゆも人きひりしやとてふ十たの船を人
の事りて留まらんむいれとやまらうせ同れをいと云
ゆ我れ控るる千とていふ倉りの山を控るるいと
ゆふ之りあはち山のなまきしむもいりりかこくも是
引ち物よきとていれいああきとて

秋のこゝろ能く

八月廿日

正賢

四陳みのを病へり子朝多と傳のり時と
とん死せず靈記せよ懐中しとて

病應へ時脊筋一骨よりりといふの骨を
多とていふ傳はけり

病應へ病志の病よりり時根をよ
病をよしはるるまの力のほ方の角へうけ
病を病のり入るる

小野とてる時病中病よけりけりおす

くまれす妻法とすすまれしよまあこい
あつげぬれい痛の
音焦ひいしあまあまあまあまあ
のいしよーい傷まよー
小思らるとまあこいしあまあまあ
病病あま

あつげぬれい痛の
音焦ひいしあまあまあまあまあ
のいしよーい傷まよー
小思らるとまあこいしあまあまあ
病病あま

右 久米甫會 傳公